

(1) 平成 6 年 7 月 15 日

学 友 会



学 友 会 会 報

第13号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 ☎<0574>26-7121



クラブハウス完成！ 学生ホール工事着工！！

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長
丹地 章夫

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様には、増々御健勝で御活躍の事と、お慶び申し上げます。本年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

自動車業界を取り巻く現況は、相変らず厳しく、政治的不安も加わり、益々先ゆきに不安の隠せない状況です。しかし、個々のユーザーに直接接する整備業界は、更に増加するであろう保有台数からみても、忙がしさを増す事は必至です。生き残りをかけた、より地道な努力が大切な時かも知れませぬ。

母校に於かれましては、本年度末にはいよいよ専攻科初の卒業生を世に送り出す運びとなる由、卒業生として、非常に心強く今後の

活躍が大いに期待されるところで

す。

又、本年度は長い間の念願であった学生ホールも建設の運びとなり、新学期からのオープンを目指して建築が進められるようです。

そしてその中には、学友会事務室も併設され、今後の活動の拠点として、活用され、学友会が益々発展して行く原動力ともなってくれるものと信じております。

このように母校は、着実に変わっているのです。一度あなたの目で確かめてみませんか。きっと価値のある選択になると思います。

さて、学友会のご当面の重要事業は支部設立であると、これまで機会ある毎に述べてまいりました。そして皆様の御協力を仰いでまいりました。お陰様で支部の数も少しづつではありますが増えて

おります。引き続きファイト溢れる諸兄の出現を待っています。我々と共に、我々の学友会を作って行くのではありませんか。

こうして誕生した支部を活性化させ、息の長いものにして行く事も重要事業の一環です。すでに沖繩・広島・岡山と順次働きかけが行なわれております。

我々は井の中の蛙になるのでは

学長の挨拶



中日本自動車短期大学
学 長
宮岡 達 志

学友会（卒業生）の諸君、お元気で御活躍のこと存じます。

本年は、中日本短大に七二七名の新入生を迎えました。また専攻科には一六名が入学しましたので、専攻科は二年生と併せ三〇名

となり、全学で一五〇〇名を越える学生が勉学に励んでいます。また、外国人留学生も一年生に八名、二年生に一〇名で、併せて一

なく、様々な分野の様々な立場の会員が相互の連絡をより密にし、気軽に集い、意見の交わせるそんな支部に育ってくれたらと思っています。皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会報発刊にあたり、御尽力頂きました関係諸兄、特に学内OB諸兄に対し、心より御礼申し上げます。

では自動車のこと、工業学院（研修生・魏正偉氏）からそれぞれ一名づつ若い講師クラスの研究者を研修生として受け入れています。中国との友好にも役立てば、喜ばしい限りであります。

八名となり、女子学生は一年生に一九名、二年生に二〇名で、併せて三九名となります。諸君の母校、中日本短大も雰囲気が大分変わりました。

さて、本年も例年の通り、中国の研修生を受け入れました。すなわち、中国の自動車工学の代表的な大学である武漢工学院（研修生・樂玉漢氏）と湖北汽車（中国

マレーシアなど諸外国の期待に因應するためにも、中日本短大の学問的なレベルを高める必要があります。すなわち、自動車工学を学問的にも正しく体系化する必要があります。その基盤の上に立って、電子機械工学コース・車体工学コース・自動車工学コースの三つのコースの制度が成立する訳であります。さて、全国の四年制大学の工学部には、まだ自動車工学科という学科は存在しません。ということは、中日本短大の専攻科が二年課程の専攻科として文部省に認可されたのが、最初ということになります。言いかえまして、自動車工学は学問として公式に認知されたばかりで、まだ日が浅いと言わざるを得ないということでもあります。中日本短大はそれに挑戦する訳ですから、至難な道であります。しかし、我々はこの困難を乗り越えなければなりません。何故ならば、本学の専攻科は『専攻科

自動車工學専攻』でありますから。

そこで、我々は本年の課題として、本学のこの専攻科を、学位授与機構に申請して、その認可を受けようと思うのであります。これも、一大決意が必要であります。

しかし、学位授与機構に認可されれば、本学の専攻科は二年課程の専攻科ですから、学士号へ一歩前進する訳であり、また、専攻科の卒業生には大学院進学道の道が開かれます。大きな夢の実現に向けて、一歩一歩前進する所存です。

さて、永年の懸案であった学生ホールの建設にいよいよ着工いたしました。構造は鉄筋コンクリート2階建(1F一三二二平方メートル・2F三六〇平方メートル・計一六八二平方メートル約五一〇坪)で、建設費は約七億円です。完工は来年(一九九五年)三月です。このホールが完成しましたら、卒業生諸君にも、各種の会議や会合に、また懇親会などの会場としても活用していただきたいと思います。

最後に学友会の諸君の御健勝をお祈りいたします。

クラブハウス棟等竣工

学生ホールも今年中に完成



学生ホール建設委員長
事務局長
杉浦 慎宣

学生ホール建設計画の概要については、昨年度の学友会々報第一二号で既にお知らせしたとおりです。

旧三号館を撤去し、跡地を整理して学生ホール建設用地に充当するという基本計画に従って、旧三号館を現在使用している学生自治会や各クラブ室、実習教材保管室や事務局の資料保管室等の移転先として「クラブハウス棟・倉庫棟新築工事」を進めてきましたが、このほどようやく竣工の運びとなりました。

クラブハウス棟、倉庫棟とも、四月十四日に竣工検査を終えたので、引越し完了次第、旧三号館は四半世紀の任務を全うし、取り壊わされることになりました。

クラブハウス棟は、建築面積三二・八平方メートル、床面積五一二平方メートルの二階建てで、一階には学生たちの自動車への夢と情熱を創造す

る加工・整備工場二室を設置しました。

一つはレーシングクラブARCN専用工場(一八〇平方メートル)で、二六平方メートルの吹抜けリフトコナーを持つ本格的な工場です。

もう一つの方は、省エネカー、レーシングカート等フライ級?車両の専用工場(八〇平方メートル)となっています。

両工場とも学生諸君からの永年の要望を実現したものです。二階には二六平方メートルの自治会室一室と、一室一三平方メートルのクラブ室一室を擁しています。

男女専用のトイレががついていることはもち論、採光、換気等の環境にも配慮したアイボリーホワイトの近代的な建物で、中日本の新しい目玉となりました。

場所はキャンパス内の西端、日本ライン自動車学校の教習コースとの境界に接するところで、四号館のすぐ隣、動力実験室(五号館)の真向いに位置しています。

また、床面積二五〇平方メートルの実習教材保管室・事務局各部課共用資料保管室等の倉庫棟は、実習棟七号館の裏(キャンパスの一番北側)にお目見得しました。

この両棟への引越しに続いてい

よいよ「学生ホール新築工事」です。

学生ホールは四月十一日にゼネコンを含む建設業者十二社への「図渡し・現地説明」を終え、同二十八日競争見積りによって施工業者の選抜を行い、五月の定例理事会での決定承認を経て、直ちに着工という当初計画通りのスケジュールで進捗しています。

諸般の事情から規模的に若干縮小——正面に向けて左翼II南側が一スパン(六×一八メートル)八平方メートル——已むなきに至りましたが、他は先回の会報でお知らせしたとおりです。

食堂 約二八〇席
ラウンジ 約一四〇席

で、ラウンジは内二〇席以上がゆったりとした形式の瀟洒な装いで仕上げられることになっています。

計画では平成六年度末までとさせていただきますが、来年二月中には完成させたいと考えています。

特に卒業して社会に巣立つて行く現二年生の諸君に、たとえわずかな期間でも新学生ホールを実感して欲しいとの願いが込められており、除々ながらとはいえ、キャンパス整備は確実な足どりで前進の歩を進めています。

——ジゼル—— エルジンI——

実習の紹介

ジゼルエンジンI実習は一年次必修の実習五科目(ガソリンエンジンI、ジゼルエンジンI、シャシI、シャシII、自動車基礎実習)の中の一つです。実習内容はジゼルエンジンの分解、組立てによる構造作動の確認の他に測定検査による故障探求などを基本にして基礎整備技術を習得させるよう努力しております。

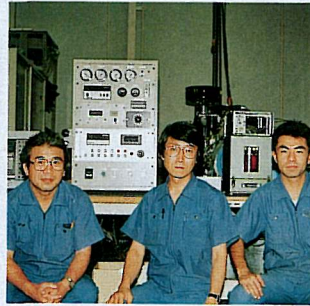
実習に当っては7R1実習室、7R2実習室で別内容の実習を行います。期間なかばで入替り残り内容の実習を行う形態を取っております。7R1実習室では点検、調整を主体に台上運転を行い、エンジン調整、故障診断と合せて、バルブタイミング及び補機類の構造機能を理解する内容になっております。また7R2実習室では分解・測定検査・組立てを主体にして作業手順や基本的な測定具の使用方法、分配型インジェクションポンプの取付け調整方法、測定値より排気量の算出、部品の名称及び構造確認等について習得する内容になっております。7R1実習室で



は平成五年八月に換気設備が設置され、燃料噴射試験やエンジンの台上運転で発生していましたが、軽油やプロパンガスの臭いが無くなり、実習室内の空気は以前より浄化され快適になりました。導入室においては従来設置された三十四インチテレビ二台、ビデオ設備に平成六年五月ビジュアルプレゼンターが加わり視聴覚教材が充実しました。教材は新型四気筒二千五百ccジーゼルエンジン、六気筒六千五百ccジーゼルエンジンを主体に八気筒一万七千cc、十気筒二万五千ccジーゼルエンジン等約四十五台ほど使っております。また動力計百十七kW(二百PS)も設置されています。実習テキストは進度に合せて編集製作したものを使用しております。

認定試験の合格率

技術研修課



ジーゼルエンジンIの実習担当者(三名)は基礎整備技術修得の他に、リーダーとして必要な人間形成の場となることを願い、授業の内容改善と工夫する努力をしております。

最後にOB諸氏の活躍と発展を切望すると共に御指摘、御指導を戴ければ幸いに存じます。

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。

今年、第二十六期の学生が三月二十七日に本学にて受験しました。二年間学んだ結果は、ガソリン八十五・二%、ジーゼル六十三・二%でした。

グラフで分かるように、昨年、一昨年に比べ、ガソリン、ジーゼル共に合格率がアップしました。



今後共さらに、一人でも多く合格できるよう、努力して行きたいと思っています。

OB近況



静岡トヨベツト
二十三期生
杉浦禎亮さん

私は、トヨタ系ディーラーでサービスマンとして頑張っております。会社内には、中日本卒業の先輩も多数おり、中日本の歴史を感じさせられました。入社して三年が経ち、念願であった、トヨタ技術検定一級にも合格することができました。まだまだ、自分としては半人前だと思いますので、これからも自分なりに目標を定め、それに向かって勉強しなければと思います。

いっしょに中日本を卒業した県内の仲間とは、今でもよく会っており、学生時代の話をしたり、メカニック同士の情報交換等、いろいろと交流しております。中日本で実習の指導をしている友人もいますので、現在の大学の様子を聞き、母校の発展にあらためて誇りを感じております。

中日本で二年間に学んだ事は、



愛知機械
二十五期生
稲葉智明さん

自分にとって大きな土台になっています。その土台を基に、一つ一つ積み重ねて、自動車整備という大きな技術を作りあげたいと思います。

大きな土台を与えてくれた母校、そして、これから卒業する後輩達に恥じぬよう、努力していかなければと思っています。

時の経つのは早いもので、中日本自動車短期大学を卒業してから一年程経ちました。

私は現在、愛知機械工業(株)、自動車の実用性の仕事をしております。みなさんは、実用性と聞かれると、どういふものを思い浮かべられるか分かりませんが、自動車を運転していく上での、ちょっとした部分をマッチングしたりする仕事です。

具体的にいえば、エンジンのかかりが悪いとか、エンストする、ノッキングするなど、その他もろもろの部分を通していくものです。そのためにいろいろな試験をしていくわけですが、通常の操作では絶対しないような項目が多

く、なぜここまでするのかと、よく思ったりしますが、やはりこういう試験をして、コンピュータの定数をいじったりして、不具合が直ると「すごいな」と思います。最後に、会社というものは、入ってみたいと本当にどういう会社か分からないものだと思います。



津田工業(株)
二十五期生
戸田 誠さん

現在、私は津田工業で、A・N・TソフトウェアやM・Iソフトウェア等の新開発に際しての特許の管理や、車体を軽量化するための第一歩となる部品単体の軽量化、コストを下げるための材質、加工方法の変更など記載した書類の管理を行っています。また同期の仲間には部品の設計を行っている人もいます。特に、特許に関しては他の会社に自分の会社の部品の注目を、従来品と比較しての利点を取られない対策として大きな役割をはたしています。まだ入社して一年しか経過していない私には大変な仕事ですが、負けずに頑張っています。ソフトウェアについてはただ開発しただけではい

ません。さまざまな状態にも対応できるような何千回、何万回もの試験に耐え、データを作り、その結果で初めてメーカーへ売り込みが出来るものでそう簡単に事は進みません。こうした中で自分の会社の部品、特にソフトウェアが付いた自動車を見ると、気持ちがいいと思うと同時に故障はないかという不安にもなります。

「はじめましてよろしく...」から始まった日本語学校の生活が終わってよいよ中日本の学生。胸が膨らんでいたまま始まった日本の大学生活ももう一ヶ月過ぎました。

在 学 生

今回は、現在在学中の一年生一名(留学生)、二年生一名、専攻科の学生一名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来の展望についてレポートしてみました。



一年
韓国出身
李 庚燉さん

自動車がなんとなく好きでこの勉強を始めた私に日本への留学まで思い切らせたのは韓国での中日本の学校説明会でした。

私の国、韓国の自動車産業は日本、ドイツそしてアメリカなど、自動車の先進国の後を追っています。エンジンと車体モデルの自社開発とか技術革新などで自動車の先進国への仲間入りを目指して自動車産業に心血を注いでいます。

国家間の交流が進んでいて国際化時代だと言われているし、その時代的な感覚が要求されている今日、私達はそれに副應するためにまた、この世で生きのこるためにもその感覚を持たなければならぬと思います。そしてその感覚を学ぶために、韓国の自動車産業に少しでも力になるために中日本を選んだ私、まだ日本の生活にも十分慣れていないけれども中日本のみなさんといっしょに頑張りたいと思います。

「はじめましてよろしく...」から始まった日本語学校の生活が終わってよいよ中日本の学生。胸が膨らんでいたまま始まった日本の大学生活ももう一ヶ月過ぎました。



二年
愛知県立
半田東高校
芳賀康宜さん

新学期をむかえて、僕はいろいろ

るな事を考えました。無事に、中日本自動車短期大学を卒業し、整備士の国家試験に合格することですが、残り少ない大学生活の中で、僕は、今だからできる事をしたいと思っています。学生自治会・大学祭実行委員会の活動を中心に、仲間といっしょになって、目には見えない何かを見つけだし、大学生の思い出をつくりたいです。このことが、将来の僕にとって大きな財産になると思うからです。

大学祭実行委員として、今年は例年よりも一味も二味も違う大学祭をつくらうと思っています。成功の二文字には、みなさんの御協力が必要です。みなさんの御協力宜しくお願い致します。



専攻科
自動車工学
(電子機械)専攻
今井康博さん

中日本の専攻科へ入学できたことを、私は大変うれしく思っています。なぜなら、自動車工業科ではできなかったことについて挑戦できるからです。

私は、電子機械を専攻しており、ここでは自分にとって少し苦手である電子について様々なことを学ぶことができます。そし

てゼミでは、自分でわからないことについて研究ができたり、メーカーなどから現場の方が来られ、講話をしていただいております。これらの授業はすべて少人数で行われるため伸びと学習できま

す。このようなことから専攻科での学生生活は大変充実しています。就職については、私たちはまだ二回生ということで就職した先輩がいらないのですが、私たちがこれから道を切り開いていかなければならないと思います。それは、自分たちが二年間できかに一生懸命学び、技術を身につけ、企業にアピールするということなんです。

専攻科へこれから進もうとしている方々のためにも、そして自動車の将来のためにも、今を大切にしていきたいと思っています。

「宇宙の果ては あるか?」

第四回 文化講演会

昨年十一月十二日、地元坂祝町中央公民館で第四回目の文化講演会を開催しました。

前回の講演会で聴衆者から「学会の講演会は、いつも内容重視

で好感がもてる」との評価に意を強くし、今回は「新しい宇宙をさぐる」と題して、日本の宇宙科学の第一人者である国立天文台主幹海部宣男教授をお招きして行いました。

この種の講演は、興味に個人差があり、一般向けではないのではないかと多少不安を抱いておりました。しかしおほかたの予想に反し、収容人員三百人の中央公民館をほぼ埋め尽す程の盛況となりました。

ご承知のように、光は1秒間に地球を七回り半の速さで進みます。現在の科学では、百億光年のレベルで光を認識できるまでに到達したと言われています。

その技術をもってしてもまだまだだ解明できない事柄が山積している宇宙には、自然科学と考古学の両面の高度な知識が要求される学問領域であることを再認識するとともに、スケールの大きさと神秘

さを感じているところで。そのせいか、講演後の質疑応答では予想以上に質の高い質問が相次ぎ、予定の時間を三〇分も延長するという盛り上がりようでした。

質問の定番である「宇宙の果てはあるか？」の質問に、先生は笑いながらこう答えられました。「ある」と言えばその果てはどうして認識できたと言われるし、「ない」と言えば、果てしない根拠を聞かれる。したがって、現段階ではわからない」と答える以外にない。——とのことでした。

翌晩からの夜空が少し変って見えるようになったのは私だけではなかったと思います。

次回も地域の方々には満足していただける講演会を企画したいと考えております。

支部活動について

組織担当
西側通雄

現在沖縄県支部をはじめ、広島県支部、岡山県支部、神奈川県支部、愛知県支部、静岡県支部の6支部が設立し、活動しています。また、岐阜県支部、長野県支部お



広 島



沖 縄

よび愛媛県支部の3支部が設立に向け準備しています。

ところが、支部活動や支部設立の準備も各役員になられている皆さんの好意であり、仕事や家庭を犠牲にされているのが実状だと思っています。

今年度、支部の設立と活性化ということで、本部役員が少しでも

支部役員の皆さんに協力をして設立、活性化をはかっていきたいと思っています。その一環として――
①各支部に対する協力態勢の強化。
②支部単位の名簿の作成。
③提出書類の整理と簡素化。
④各支部会員への書類の発送等できる限り協力したいと考えています。
今年3月に沖縄、4月には広島を訪問させていただき支部の役員の方々と懇談し、支部の活性化

について、提出書類について等色々な問題点をお聞き致しました。今後でもできる限り各支部を訪問し、支部の設立や活性化に向けて積極的に協力態勢を強めていきたいと思っています。
皆さんも支部設立の計画や予定がありましたらご一報いただければ幸いです。

会員に対する福利厚生

第一弾

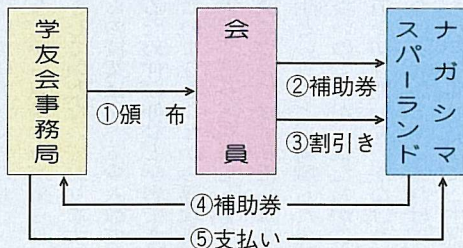
ナガシマス・パライランド入場料補助

かねてより懸案であった会員に対する福利厚生制度が、このたび長島観光開発株との契約締結により実現する運びとなりました。

今人気急上昇中の木製コースター(ホワイトサイクロン)をはじめ、長島温泉レジャーセンター、ジャンボ海水プールなど一日で遊びきれない遊園地ナガシマス・パライランドで楽しい一日を過ごしてはいかががでしょうか。

同封しました補助券に必要事項を記入の上、受付窓口で入場料利用者負担金とともに提出して下さい。詳しくは補助券をご覧ください。

補助券の流れ





1992(平成4)年度 監査報告書

平成4年度の学友会会計に関し、貸借対照表及び収支計算書を、平成5年9月22日総勘定元帳及び各種帳票類と照合し、監査した結果、適法且つ適切でありました。

平成5年9月24日

収支計算書

1992年8月1日から1993年7月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算超過額 (△未達額)	備考
I. 収入の部				
1. 基金運用収入	1,200,000	1,319,313	119,313	
2. 会費収入	14,000,000	15,072,000	1,072,000	
3. 事業収入	100,000	0	△ 100,000	
4. 雑収入	800,000	579,139	△ 220,851	
(1) 受取利息	800,000	486,068	△ 313,932	
(2) 雑収入		93,071	93,071	注1
当期収入合計(A)	16,100,000	16,970,452	870,452	
前期繰越収支差額	29,938,869	29,938,869	0	
収入合計(B)	46,038,869	46,909,321	870,452	
II. 支出の部				
1. 事業費	12,800,000	6,655,121	△ 6,144,879	
(1) 会報製作費	2,300,000	1,200,925	△ 1,099,075	
(2) 特別企画費	3,500,000	1,704,498	△ 1,795,502	
(3) 記念品費	2,500,000	2,532,000	32,000	
(4) 支部活動費	2,000,000	1,053,818	△ 946,182	注2
(5) 広報費	200,000	160,000	△ 40,000	注3
(6) 補助金	200,000	0	△ 200,000	
(7) 福利費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
(8) 事業雑費	100,000	3,880	△ 96,120	
2. 会議費	2,700,000	1,455,902	△ 1,244,098	
(1) 総会費	1,200,000	549,362	△ 650,638	
(2) 役員会費	400,000	94,540	△ 305,460	
(3) 役員会旅費	900,000	812,000	△ 88,000	
(4) 役員懇親会費	200,000	0	△ 200,000	
3. 事務費	1,580,000	1,550,138	△ 29,862	
(1) 人件費	450,000	500,000	50,000	
(2) 通信印刷費	1,100,000	1,040,804	△ 59,196	
(3) 事務用品費	20,000	144	△ 19,856	
(4) 事務雑費	10,000	9,190	△ 810	
4. 基金財産設定支出	6,000,000	3,000,000	△ 3,000,000	
(1) 学友会館建設基金	4,000,000	2,000,000	△ 2,000,000	
(2) 奨学金積立基金	2,000,000	1,000,000	△ 1,000,000	
5. 子備費	100,000	0	△ 100,000	
当期支出合計(C)	23,180,000	12,661,161	△10,518,839	
当期収支差額(A)-(C)	△ 7,080,000	4,309,291	11,389,291	
次期繰越収支差額(B)-(C)	22,858,869	34,248,160	11,389,291	

- (注) 1. 雑収入の内訳 ①マグカップ等グッズ売上げ 78,350
 ②名簿売上げ 12,000
 ③その他 2,721
 93,071
2. 支部活動費は静岡支部設立に伴うものである。
 3. 広報費はグッズ製作に要したものである。
 4. 消費税の会計処理は税込方式で行っている。

学友会 監査委員 桜谷 興道



学友会 監査委員 佐藤 一夫



収支予算書

1993年8月1日から1994年7月31日まで (単位:円)

科 目	92年度決算額 (A)	93年度予算額 (B)	比較増減 (A)-(B)
I. 収支の部			
1. 基金運用収入	1,319,313	1,300,000	19,313
2. 会費収入	15,072,000	14,500,000	572,000
3. 事業収入	0	100,000	(100,000)
4. 雑収入	579,139	600,000	(20,861)
(1) 受取利息	486,068	450,000	36,068
(2) 雑収入	93,071	150,000	(56,929)
当期収入合計(A)	16,970,452	16,500,000	470,452
前期繰越収支差額	29,938,869	34,248,160	(4,309,291)
収入合計(B)	46,909,321	50,748,160	(3,838,839)
II. 支出の部			
1. 事業費	6,655,121	12,050,000	(5,394,879)
(1) 会報製作費	1,200,925	1,500,000	(299,075)
(2) 特別企画費	1,704,498	3,500,000	(1,795,502)
(3) 記念品費	2,532,000	2,600,000	(68,000)
(4) 支部活動費	1,053,818	2,000,000	(946,182)
(5) 広報費	160,000	200,000	(40,000)
(6) 補助金	0	200,000	(200,000)
(7) 事業雑費	3,880	50,000	(46,120)
(8) 福利費	0	2,000,000	(2,000,000)
2. 会議費	1,455,902	2,400,000	(944,098)
(1) 総会費	549,362	1,000,000	(450,638)
(2) 役員会費	94,540	300,000	(205,460)
(3) 役員会旅費	812,000	900,000	(88,000)
(4) 役員懇親会費	0	200,000	(200,000)
3. 事務費	1,550,138	1,880,000	(329,862)
(1) 人件費	500,000	500,000	0
(2) 通信印刷費	1,040,804	1,350,000	(309,196)
(3) 事務用品費	144	20,000	(19,856)
(4) 事務雑費	9,190	10,000	(810)
4. 基金財産設定支出	3,000,000	6,000,000	(3,000,000)
(1) 学友会館建設基金	2,000,000	4,000,000	(2,000,000)
(2) 奨学金積立基金	1,000,000	2,000,000	(1,000,000)
5. 子備費	0	100,000	(100,000)
当期支出合計(C)	12,661,161	22,430,000	(9,768,839)
当期収支差額(A)-(C)	4,309,291	(5,930,000)	10,239,291
次期繰越収支差額(B)-(C)	34,248,160	28,318,160	5,930,000

平成5年度事業計画 事業担当 大脇 澄男

母校が設立されたのが一九六七年(昭和四十二年)です。したがって三年後の一九九七年が設立三〇周年ということになります。また第一期生が社会に出てから今年で二十五年が経ちます。

今年度の事業計画はこうした時間・歴史の経過を踏まえ、三年後の三〇周年記念事業を念頭において実施すべきものと考えます。

◎総会の開催

三〇周年記念事業に向けての準備の年として位置づけられ、重要な総会になる。

◎支部活動の活性化と増設

既存支部の増強と本部との連携強化が課題です。また支部数の拡大も緊急の課題です。とくに岐阜・愛媛については年度内に目標をつける必要があります。

◎学友会室の整備

念願だった学友会館(室)が実現の運びになりました。これは、大学側が計画・実施する学生ホールの建て替え事業の中で、フロアの一部を学友会室に充てるものです。来春完成の予定で計画が進められています。これに合わせ



て学友会室の整備が必要で
す。
◎講演会の開催
地域住民との交流を目的に始
めた文化講演会(一九九〇年第一
回)が今回で五回目を迎えます。

これまで自然をテーマにしてき
ましたが今回は本テーマの区切りと
するため、それにふさわしい講演
者を選定中です。

◎学友会奨学金制度の具体化

学友会独自の奨学金制度設立を
目指して原資の積立を行ってきま
したが相当額に達したので授与の
方法など運用法を具体化する必要
があります。

◎大学との懇談会の実施

今年度は三〇周年に向けての準
備の年でもあるので話題をこの点
に絞って開催する必要があります。

◎準会員(在学生)との交流

学友会の運転資金は毎年の入学
生の納付金によってまかなわれて
います。この点を踏まえて、在学
生の学園生活がより充実したもの
になるよう側面から援助する必要
を感じます。自治会役員などと意
見交換しながら具体的な行動を起
こす必要があります。

◎その他

触れなかった事項については、
従前の方法で処理するものとしま
す。

25周年記念
会員名簿

完成



昨年ご案内しました25周年記
念会員名簿が完成し、販売をし
ています。完成が遅れ、一部の方
には御迷惑をかけ申し訳ありませ
んでした。購入を希望される方
は、同封の申し込み用紙に記入の
上、郵便小為替(郵便局で購入)
四、〇〇〇円分を同封し、学友会
事務局宛にお送り下さい。折り返
し発送致します。尚、名簿委員会
では、毎年会報を通じ会員の住
所・勤務先等の変更に対応してい
ますが、宛先不明で返送される数
が多いようです。住所等変更が生
じましたら、同封のハガキにて連
絡して下さいます。

代議員総会
開催のお知らせ

平成六年度代議員総会を左記の
要領で開催します。

代議員各位には、ご多用中誠に
恐縮ですが、万障繰り合わせの上、
ご出席下さいますようお願い致し
ます。また一般会員の方々のご出
席についても、オブザーバー参加
として歓迎します。

記

日時 平成六年十月二日(日)
午前十時より
場所 浜松名鉄ホテル

案内図



<交通のご案内> ●J R 新幹線、東海道本線浜松駅下車 徒歩3分
●遠州鉄道新浜松駅下車 徒歩5分

- 一、平成五年度事業報告
- 一、平成五年度 決算報告・監査報告
- 一、平成六年度・七年度 役員の見出し
- 一、平成六年度 事業計画及び予算
- 一、支部活動
- 一、講演会の開催について
- 一、会員に対する福利厚生施設について
- 一、その他

キャンパスグッズについて
お知らせ

今回は、キーホルダーとマグカ
ップについての販売価格が前回よ
りも割安になりましたので、改め
て紹介させて頂きます。

◎販売価格

- キーホルダー 三〇〇円
- マグカップ 五〇〇円
- セット(キーホルダー+マグ
カップ) 八〇〇円

※いずれも消費税・送料込の価
格です。

◎申込方法・申込先

※短大内・事務局宛

現在キャンパスグッズとして新
しいグッズを考案中ですが、ご意
見等がございましたらどうぞご連
絡下さい。

編集後記

会報編集部では、皆さんの情報
をお待ちしております。学友会事
務局宛ての返信用葉書を利用し
て、取り上げて欲しい事柄をお知
らせ下さい。

また、今回は会員への特典とし
て保養施設の割引券が添付されて
いますので、どうぞご利用下さい。
最後に、発刊にあたりご協力い
ただきました方々に心より厚く御
礼申し上げます。